

対象河川の抽出について

対象河川の抽出について

- 公表されているオープンデータをもとに、以下の手順で土砂・流木堆積の影響を考慮した小規模河川浸水想定区域図の作成対象河川を抽出する。
- なお、抽出対象とした河川の母数は、小規模河川の浸水想定区域図の作成対象河川（洪水予報・水位周知河川以外の洪水浸水想定区域図作成対象河川）である。

【前提条件】

- ・小規模河川の浸水想定区域図対象河川を母数とする。

【STEP 0: 流域ポリゴンの確認・作成】

- ・ 小規模河川の洪水浸水想定区域図作成対象河川を対象に、国土数値情報の流域界データを確認する
 - ・ 1ポリゴンに1河川のみの場合は、国土数値情報の流域界データを第一段階で用いる
 - ・ 1ポリゴンに2河川以上を含んでいる場合は、日本流向マップをもとに流域ポリゴンを各河川ごとに作成し、第一段階で用いる

【STEP 1: 第一段階】

- ・ STEP 0で確認・作成した流域ポリゴンで、流域面積・山地面積割合の判定を行う（流域面積20km²以下、山地面積割合※80%以上となる河川を抽出）
（※国土数値情報「土地利用細分メッシュ」における「森林」「荒地」の面積割合の和）

【STEP 2: 第二段階】

- ・ 第一段階で除外された流域（河川）を対象に、当該河川に流入する主な支川の合流点を下流端とする小流域を作成する
- ・ 作成された流域ごとに、流域面積・山地面積割合の判定を行い、条件を満たす流域（河川）を抽出する。
（ここでは作業の効率性のため、河川上流側から20km²以下となる流域を機械的に抽出し、設定した流域に対し山地面積割合の判定を行った）

【STEP 3: 最終判定】

- ・ 第一段階・第二段階で抽出された流域（河川）から、当該流域の河川勾配※が1/20以上となるものを除外する
（※日本流向マップの標高データをもとに、二点間の距離（概ね30m）と標高差より算定）

